

コア・マーケティング 実践マニュアル

「コア」が世に出て、ブレイクスルーが起こるまで

1人から始まり、8人で発火し、社会の相転移へ。

ANOMI「未来予測と生命論的世界観」第III部・重心をもとに構成

コア・マーケティングの原則

普通のマーケティングと、順番が違う。

人数より

深度

説得より

同期

拡大より

相轉移

先に「広げる」のではない。
少数の人が深く発火し、そのあとに接触数を増やす。

5つの基本用語

この5つが、実践の共通言語になる。

CORE	コア	頭の観念より先にある、身体化された内発的な価値。選択の羅針盤。
CREATOR	クリエイター（創造者）	コアを選び取り、感応する側から発信する側へ踏み出した個。すべての起点。
INNOVATOR	イノベーター	まだ言葉になっていない他者のコアに、真っ先に応答する感受性を持つ人。
SUPPORTER	応援者	コアへの理解者・共感者。既存のコミュニティで信頼を持つ「橋」。
CATALYST	触媒係数 C_i	その人が存在するだけで、周囲がどれだけ動かされるかを表す倍率。

全体マップ | 1人 → 8人 → 150人 → 外部 → 相転移

数字は目標ではなく、状態の変化を見るための目安。



最小単位を深くつくり、回路が育ってから広げる。

STEP 1A | 未来は「可能性の分布」として存在する

未来予測の数式が示しているのは、「一本の未来」ではなく、複数の可能性。

$$P(X(t)) = B(I_0) \times \prod_{j=1}^{10} A_j(t)^{w_j} \times e^{(-\lambda t)} \times Z(t) \times S[P]$$

$P(X(t))$ = 未来の可能性の分布

P = 確率 / X = 未来の状態 / t = 時間

初期条件 | $B(I_0)$

生まれた瞬間の条件。
生年月日・遺伝・素質・家庭環境・天体の配置など、本人が選べなかった素材が「転がりやすさ」の傾きを与える。

10の変数 | $\prod_{j=1}^{10} A_j(t)^{w_j}$

経済・テクノロジー・環境・意識・身体性・物語・関係性の密度・時間感覚・権力／制度・生命／土壌。

時間減衰 | $e^{(-\lambda t)}$

遠い未来ほど読めなくなる。
時間が離れるほど現在の情報の影響力は弱まり、不確実性が増す。

予測不可能性 | $Z(t)$

モデルでは事前に記述しきれない偶発性・揺らぎ。
偶然の出会い、突然の出来事、災害などが未来の軌道を変える。

自己参照 | $S[P]$

予測すること自体が、人の認識や選択を変え、対象となる未来を書き換える。

初期条件 × 10の動的変数 × 時間減衰 × 予測不可能性 × 自己参照。だから未来は、一本ではなく「可能性の分布」として開かれている。

STEP 1B | 未来予測の限界から、「個の選択」へ

可能性は描けても、どの未来が現実になるかまでは決められない。

変数は多く、互いに影響し、遠い未来ほど不確実性が増える。

未来は、確定した一本の線ではない。

可能性の「確率分布」としてしか描けない。

では、その可能性のどれが「現実」になるのか？

予測する側から見れば「揺らぎ」の中に、
決定的な変数がある。

それが——「わたしの選択」。

未来を予測する側から、未来を選び取る側へ。

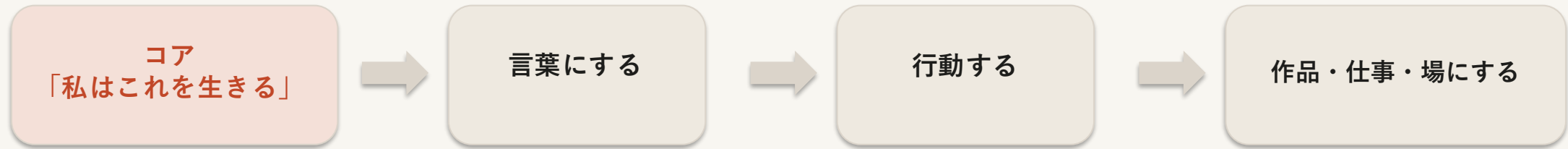
これが「覚醒」。

唯一無二、 「あなた」の人生を歩もう

それが、クリエイター（創造者）としての始まり

STEP 2 | クリエイターとして立つ

選び取った未来を、まず自分が現実にする。



「私はこれを生きる」を、見える形で世界に置く。

仲間を集める前に、自分自身が最初の「結晶核」になる。

判定 | コアが、言葉だけでなく日々の選択・行動・形として現れているか？

STEP 3 | クリエイターとイノベーター

未来は、一人の創造から始まり、別の「個」の選択へ伝わっていく。

CREATOR

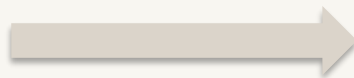
クリエイター（創造者）

まだない未来を、
自分から先に生き始める人。

「私は、この未来を生きる」

コアを抽出し、行動原理として、
言葉・行動・形にしていく。

感応



未来が
「私」に移る

INNOVATOR

イノベーター

その未来にいち早く感応し、
自分の未来として生き始める人。

「私も、この未来を生きる」

賛同者ではなく、
当事者として動き始める。

一人の未来が、もう一人の「自分の未来」になる。

この連鎖が、同期発火の前提になる。

STEP 3B | 「1+5」が、ブレークスルーの連鎖を起動する

5人を「集める」のではない。コアに感応した5人が、当事者として動き始める。



イノベーター5人＝共に火をつける | 応援者＝火を外へ運ぶ | 150人＝最初の関係圏

ブレークスルーは、その波及が臨界点を超え「自走」に切り替わる瞬間。

STEP 3C | なぜ「5人」なのか？

人は世界全体ではなく、重なり合う関係圏のなかで生きている。

5 → 15 → 50 → 150 → 500

親密な核

顔が見える関係圏

外縁

5人
最も濃密な関係の単位

約150人
変化が観測される関係圏

5人の深い発火が、150人すべてへの説得を不要にする。

ダンバーの関係階層や、ロジャーズの「最初期に動く少数」(イノベーター)という知見は、この構造を後ろから支える補助線。数字を当てはめること自体が目的ではない。

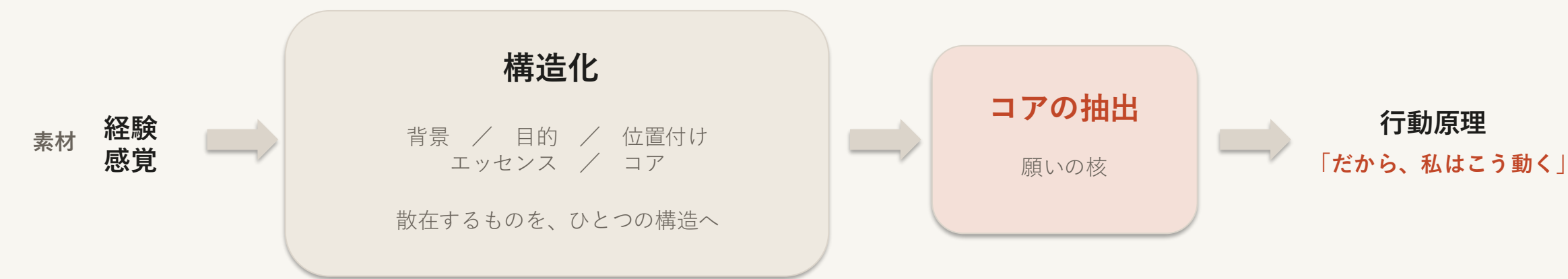
STEP 3A | ブレークスルーは「臨界点」を超えたときに起こる

同期発火はゴールではない。変化の連鎖を起動する「着火点」。



STEP 5 | コアを抽出し、行動原理にする

構造化とは、散在する経験や感覚から「なぜ私はこれをするのか」を取り出すこと。



行動原理が、現実の形を選びはじめる。



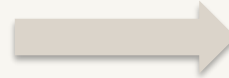
コアは「言葉」で終わらず、社会に触れられるものになる。

STEP 6 | コア・チームの原型をつくる

チームは、クリエイターとイノベーターの融合から始まる。

クリエイター（創造者）

まだない未来を、
先に生き、形にする。



感応・融合

イノベーター

その未来を「自分の未来」として、
現場に入り一緒に動く。

クリエイター × イノベーター = コア・チームの原型

ここで初めて、一人の願いが「チームの動き」に変わる。

STEP 7 | コア・チームで戦略をつくる

感応しただけでは、イノベーションは起こらない。

コアを共有し、「何をブレークスルーさせるのか」を決める。



最初の戦略は、マスに届けることではない。

「このコアなら、誰の心が動くか？」を具体的に考える。

STEP 8 | 応援者の心を動かす

不特定多数ではなく、まず顔の見える一人へ。

1

候補を挙げる

身近な関係圏から
響きそうな人を選ぶ

2

メッセージをつくる

その人にとって
なぜ意味があるかを考える

3

直接届ける

一対一で
コアと目的を伝える

4

協力につなげる

人・信用・発信・場所・
資金などをお願いする

応援者（アーリーアダプター）＝現場には入らなくても、この未来に力を貸してくれる人。

応援者は、コア・チームと社会をつなぐ最初の橋になる。

STEP 9 | まず「8人」の起点＝ユニットをつくる

1 + 5 + 2は完成形ではない。社会への波及を始めるための、最初の仮説モデル。

$$1 + 5 + 2 = 8$$

1 | クリエイター

コアの起点
未来を先に生きる

5 | イノベーター

コアに感応し
現場で一緒に動く

2 | 応援者

アーリーアダプター
外の関係圏へ橋をかける

応援者は多いほどいい。ロジャーズ比率を150人に重ねると、目安は約20人。

最初から20人には届かない。1人だけでは、その人の熱量や影響力に依存する。
だからまず「2人」を、複数の関係圏へ波及を始める最小単位と置く。

メンバーは固定しない。出入りしながら、コアの濃度とチームの力を高めていく。

STEP 10 | 生態系は「定常開放系」である

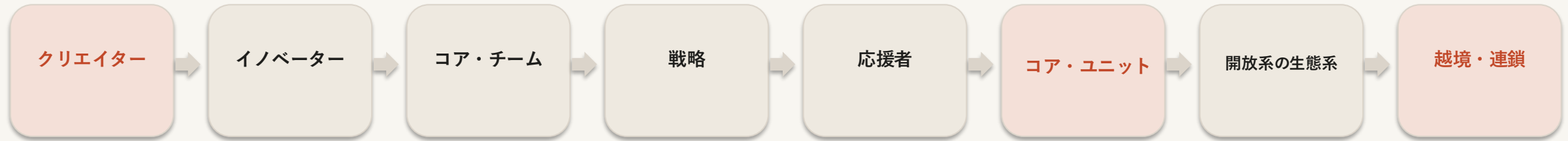
150人は閉じた箱ではない。規模を保ちながら、人が出入りし、外部とつながり続ける。



人が入れ替わりながら、感応者が役割を変え、コアの影響力が育っていく。

CORE BREAKTHROUGH | イノベーションを起こす流れ

マスを追わず、小さな核から、生態系を越える連鎖をつくる。



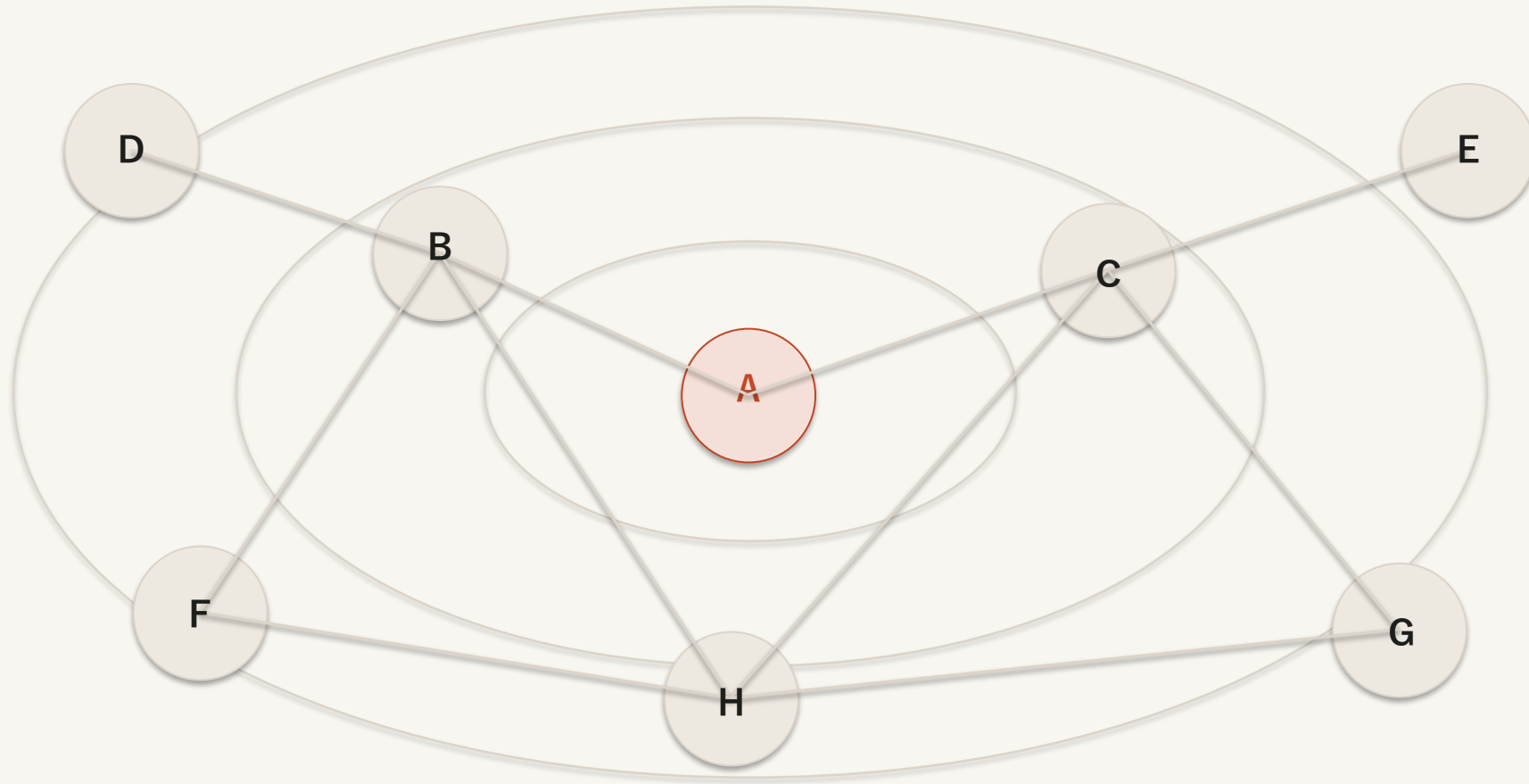
8人が世界を直接変えるのではない。

**8人が最初の生態系を動かし、
その生態系が次の生態系を動かす。**

その連鎖が、社会のブレークスルーへつながる。

STEP 11 | 生態系を越えて、影響が波及する

AからB・Cへ。BからDへ、CからEへ——複数の生態系が連鎖しながら、影響圏が外へ広がる。

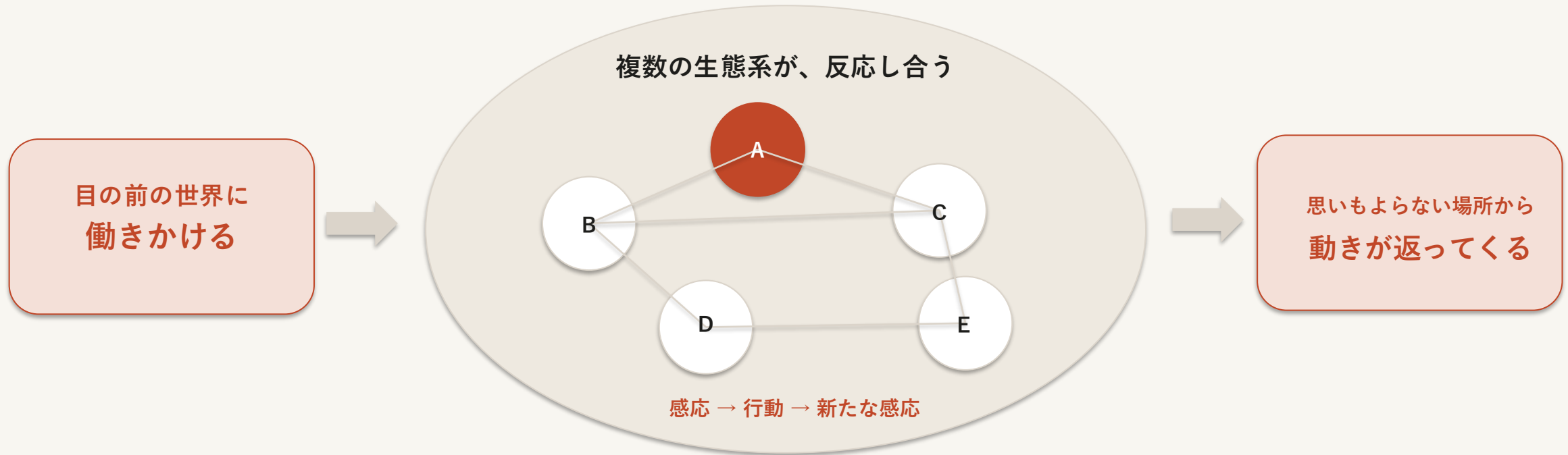


ひとつの生態系が大きくなるのではない。感応した生態系が、次の生態系を動かしていく。

複数の生態系で同時多発的な変化が起こる——社会的ブレークスルーの始まり。

STEP 12 | 世界との相互作用が始まる

働きかけは、一本の矢印では終わらない。複数の生態系の反応を経て、動きが返ってくる。



反応がフラクタルに連鎖し、こちらの次の行動も変えていく。

世界は「働きかける対象」から、相互作用する生態系へ変わる。

STEP 13 | 生態系の外にも、入口をつくる

マスを一にきなり動かそうとはしない。ただし、まだ出会っていない感応者への入口は開いておく。

最初は、広く届けるより「あの人の心を動かす」。

深める発信

生態系の内側

直接対話／関係づくり
コアを共有し、行動につなげる

開く発信

生態系の外側

Web／SNS／映像／書籍／デザイン
まだ知らない人に、最初の接点をつくる

外への発信は「転換」ではなく、未来の感応者に種を残すための回路。

マスは、いきなり転換のターゲットにしない。

STEP 14 | 世界のほうから、動き始める

臨界点を超えると、こちらが一つずつ動かさなくても、変化が次の変化を生み始める。

こちらから声をかけなくても、 **新しい人がやってくる。**

別の場所で、 **同じような動きが生まれる。**

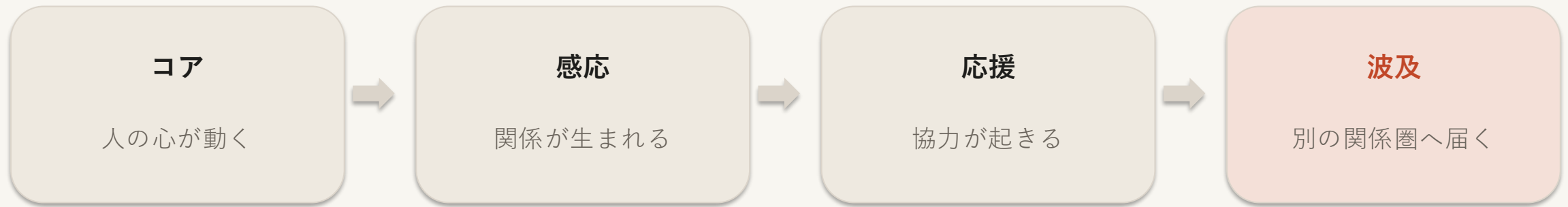
知らないところで、 **誰かが誰かを動かしはじめる。**

変化が、変化を生みはじめる。

これが、社会的ブレークスルーが現実になりはじめるサイン。

STEP 15 | 広げる前に、「動いているか」を確かめる

大きな資源を投入する前に、小さな規模でカスケードが始まっているかを見る。



この循環が実際に起きているなら、コアには「波及する力」がある。

ここで初めて、次のスケールへ進む根拠が生まれる。

STEP 16 | 機が熟したら、腹を括ってマスへ

特定の商品・サービスを売るのではなく、世界観そのものをブランディングとして社会へ放つ。

小さく確かめ、大きく波及させる。

販促ではない

「この商品を買ってください」

ブランディングとして放つ

「私たちは、こんな世界をつくりたい」

すでに始まった波を、資本と表現の力で一気に増幅する。

資金を投入し、覚悟をもって「社会の空気」を動かす。

最初は、一人の心を動かす。最後は、社会の空気を動かす。

THE NEW WORLD

コントロールから、シンクロへ。

社会は、コアから質的に変容する。

一人のコアから始まった変化が、
生態系を越えて響き合い、社会そのものを変えていく。

新しい世界へ、ようこそ。

一人の未来が、社会の動きに変わる

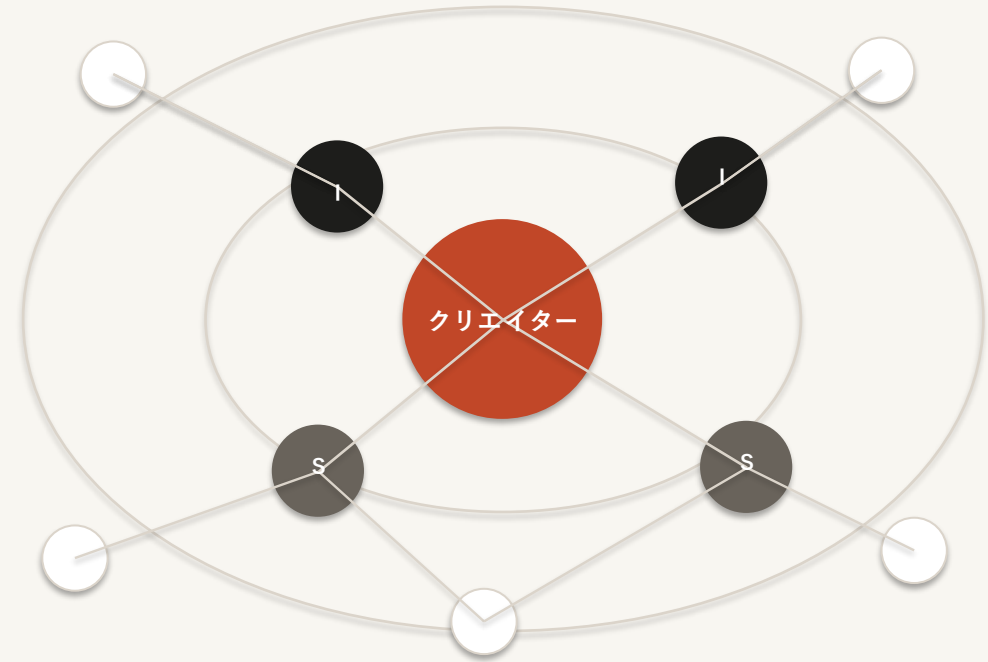
クリエイターは中心にあり続ける。違うのは、そのコアに反応する関係圏の広がり。

BEFORE



まだ、一人で未来を先に生きている

AFTER



コアを核に、関係圏のさらに外へつながっていく

一人の未来が、関係の連鎖を通じて「社会の動き」へ変わっていく。

世界同時発火は、80億人の話ではない。

いま・ここにいる少数の人が、
同じ深さで発火することから始まる。

一人から始める。
8人で発火する。そして、世界の慣性を動かす。